

知って備える防災メモ

第19回



男女がともに助け合う

防災体制づくりを目指そう！

『誰もが個性を生かし、能力を發揮できる社会』である男女共同参画社会。多発する災害に立ち向かうため、男女を問わず、多様な人たちがそれぞれ持つ力を防災に役立てることが、災害に強いまちづくりにつながります。日頃から、各年代層の男女が力を合わせて地域活動に取り組み、男女が共に助け合う防災体制づくりを目指しましょう。

男女双方の視点を

取り入れた防災体制づくり

災害時に、男女それぞれが求める支援への対応や妊産婦、乳幼児、高齢者や障がいのある方への支援を行うためには、あらかじめ防災体制づくりを行い、実践のための訓練を行うことが必要です。

実際に、日頃から男女双方の視点を取り入れて訓練を行うことによって、被害を最小限にとどめることができます。

方針決定の場への女性の参画

男女それぞれが持つ暮らしの視点は、防災活動を行うっていくためには欠かせないものです。双方の視点を取り入れるには、地域の自主防災組織や町内会など、方針を決定する場に女性も加わり、男女が共に防災の担い手として活動していくことが大切です。日頃から女性も防災や災害対応の担い手として意見を述べ、活動に参加していきましょう。



問い合わせ

総務グループ

(☎) 11330

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

中央レクリエーションダンスサークル

『中央レクリエーションダンスサークル』は、『公民館講座(市主催)』に参加した方がたが講座終了後もダンスを続けようと結成し、ことし創立30周年を迎えました。

同サークルでは、現在86人のメンバーが毎月3・4回、10時〜12時に市民会館で活動しています。ダンスの指導資格を持つメンバーが曲を紹介し、これまで70曲以上を踊ってきました。

代表の平賀玲子さんは「激しい運動ではありませんが、曲に合わせて体を動かすので、健康のためになります。ダンスは暮らしに適度な緊張感と刺激を与えてくれますよ」と、活動の魅力を教えてくれました。

「仲間にも恵まれ、30年活動することができました。これからも無理をせず、健康維持を目的に、長く活動を続けたいです」と、平賀さんは抱負を語ります。

3年前からサークルに参加している平賀泉さんは「毎月新しい曲の練習をするので、体だけでなく頭の体操にもなります。世代の違う人との交流も楽しみのひとつなので、ぜひ若い方に参加してほしいですね」と話してくれました。

見学を希望する方は、平賀玲子さん(☎) 4735) まで。



▲曲に合わせてダンスを楽しむ皆さん

ダンスは暮らしに適度な緊張感と刺激を与えてくれます

市民の力が集結した 夏祭り

「今年、第2回目となる『のぼりべつ夏祭り』は、近隣の市町からもたくさんの方に来ていただくためにイベント内容を多彩にしようと、昨年に続き胆振のご当地グルメを集めた『いぶりマルシェ』のほか、日高の物産を扱った『nitatanマルシェ』が新たに加わります。また、今まで地獄谷でしか見ることでできなかった鬼火も特別開催しますので、あの迫力をぜひ『のぼりべつ夏祭り』でも体感してほしいと思います」と話す西尾拓也さん。

西尾さんは、イベントの開催をはじめ、さまざままちづくり活動を通し、信頼関係や地区同士のつながりの大切さを実感していると話します。

「市内でお祭りやイベントがあるときは、地区の垣根を越えて互いに助け合っています。こういった協力を得られることは、普段からつながりを持つていなければ難しいものです。今回の夏祭りもそういった多くの力により形作られています。ありがとうございますを感じています。これからも地区同士のつながりをより一層強め、大切に



▲昨年の『第1回 のぼりべつ夏祭り』の様子

子どもたちの記憶に残る 夏祭りを

西尾さんが、多くの方と協力しながらまちづくりに携わる理由は、登別の未来をより良いものにしていきたいという思いからでした。

「今回の夏祭りでは、特に小さい子どもたちに地元のお祭りを楽ししい思い出をつくってほしいと考えています。将来、登別の未来を担っていく子どもたちに、地元への愛着を持ってほしいという願いからです。子どもたちが大人になったとき、登別市の将来をより良いものにしてくれればうれしいですね」

自身のまちづくり活動を通じて、登別を活気のあるまちにしていきたい、との思いを持つ西尾さん。8月の夏祭り開催に向け、日々準備を進めています。



KIRARI

にし お た く や

西尾拓也さん(若山町)

登別をはじめ、胆振地域が誇る食や文化の魅力発信をテーマに、市民有志が実行委員会を立ち上げ、昨年からはまった『のぼりべつ夏祭り』。同祭りは、今年も8月9日(土)・10日(日)の2日間、川上公園を会場に開催され、多彩な催しが行われます。

今回は、同夏祭りの運営の先頭に立つ、実行委員長の西尾拓也さんに、その取り組みやまちづくりに対する思いを聞きました。

夏祭りを通じて地元 への愛着を感じてほ しい



昭和47年、室蘭市生まれ。42歳。

室蘭市内の高校を卒業後、環境衛生関連企業に就職。平成6年、クリーンビル開発(株)(千歳町)に入社し、現在は同社の代表取締役を務める傍ら、のぼりべつ夏祭り実行委員長をはじめ、まちづくり団体『のぼりべつ元鬼協議会』の会長を務めるなど、まちづくり活動に積極的に携わっている。